

VDESの国際的な動向と方針

野口英毅

参与、日本船舶技術研究協会

議長、WG2 NCSR Sub-Committee, IMO

議長、デジタル技術委員会、IALA



一般財団法人 **日本船舶技術研究協会**
JAPAN SHIP TECHNOLOGY RESEARCH ASSOCIATION

SEA JAPAN 2026

発表項目

1. IMOにおける動向
2. ITUにおける動向
3. IECにおける動向
4. IALAにおける動向
5. 今後の方向
6. 課題



IMOにおける動向

- 2020年：SOLAS条約改正提案
- 2021年：作業計画に取り入れ合意
- 2023年：作業開始
- 2025年：作業終了、改正案承認
- 2026年：採択（P）
- 2028年：発効（P）



**INTERNATIONAL
MARITIME
ORGANIZATION**

ITUにおける動向

- 2015年：WRC-15地上系周波数割り当て、ITU-R M.2092発行
- 2019年：WRC-19衛星系周波数割り当て
- 2022年：ITU-R M.2092-1発行
- 2026年：ITU-R M.2029-2発行



IECにおける動向

- VDES 船舶局試験基準を2028年のSOLAS改正案発行に間に合うよう作成中



International
Electrotechnical
Commission

IALAにおける動向

- 2016年：指針G1117 VDES概要
- 2017年：勧告R1007 陸上基盤のためのVDES
- 2020年：指針G1158 VDES R-Mode
- 2023年：指針G1181 VDES VHFデータ回線完全性監視
- 2026年：新勧告 VDEペイロードフォーマット特定子(予定)



全体的な動向、方針、課題

- VDESに関しては、2028年1月1日の改正SOLAS条約の発効を目指して、機器開発、衛星打ち上げ、試験研究が加速
- S-100ECDIS、自動運航船の出現に伴う、航行環境デジタル化に伴う影響
- 低軌道インターネット通信衛星の増加に伴う海上通信環境の変化の影響
- 国際政治情勢の変化に伴う航行安全、海上安全、海上治安環境変化の影響

ご視聴ありがとうございました